
F r o m

月島 真昼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

From

【Nコード】

N0896J

【作者名】

月島 真昼

【あらすじ】

あらすじに「読むな!」って書いてると「よし、わかった。読まない!」ってなるよね? だからあえて「読め!」って書いてみる。そんな話

鏡の前で私はニキビを引っ掻いた。
ぶちり

薄い瘡蓋みたいなのが剥がれて中から膿が出てくる。
拭き取る。

でもどんどん出てくる。

私の中の汚い物がどんどん出ていく。

「……やめた」

生きるの、やーめた。

私は洗面所を出て用意してあったコートとマフラーを着込んだ。
12月25日。

クリスマス。

なんにもない、クリスマス。

1人きりの。

1人きりじゃなくすことは、出来なくはない。

誰かに電話すればいい。

そのへんの男に声をかけたらいい。

顔のパーツだけは自信がある。

ゴキブリはいはい、男を驚掴み。

悲しいだけ。

一緒に過ごすはずだったみんなはもういないのに。

家を飛び出した。

「メリークリスマス」

空に向けて呟く。

通りに出る。

知ってる顔は1つもなかった。

こんなにたくさん人が居るのに。

あんなにたくさんいたのに。

「インフルエンザ？ バカじゃん、ダッセエ」

「あんたのぶんまで楽しんできてあげる ハ・ワ・イ」

飛行機事故ってなんだよ。

ちよつと前まで一緒に笑ってたじゃないか。

いっぺんすぎてみんなの葬式ちゃんと出れなかったじゃないか。

「なあ君、1人？」

うるさいバカ

「止まってよ、ちよつと喋らない？」

煩わしくなって駆け出した。

追っ掛けては来なかった。振り返ったら情けない顔で何かぼやいてる。

頬が冷たかった。寒さのせいだけじゃない。

拭いたくなつてなんだか悔しいから二キビを引っ搔くだけにした。黄色くなつて固まつてた膿が剥がれた。

さっきのやつがとぼとぼ歩き出す。

こつち向けよつて叫びたくなつて辞めた。

知らない顔

知らない顔

知らない顔

前はうんざりするほど知ってる顔ばかりだったのに。

私は誰も知らない。

誰も私を知らない。

消えちやいそうになる。

消えなくなる。

いつかの廃ビル。

埃の積もった階段に1つずつ足音を残して一番上まで登った。
屋上。

フェンス、有刺鉄線、落書き。

何も変わってない。

少し狭く感じるのはきつと私が大きくなったから。

この場所は幼なじみの優ちゃんと一緒に遊んだままだ。

「ここだと空が近いね」って、一緒に笑ったままだ。

青い空は吸い込まれそうなくらい冷たかった。

あの日は？

私は持参したペンチを握ってフェンスをよじ登った。

有刺鉄線を切り落とす。

邪魔者が居なくなったフェンスの小さい面積に座り込む。

遠くまでよく見えた。

遠くからもよく見えるはずだった。

「このまま飛び降りちゃえ」

足をかけた。

ポケットの中で携帯が震えた。

みんなが邪魔しにきたのかも。

だけど私は飛ぶよ。

これみたらみんなと同じところにもう行っちゃうよ。

「 f r o m : 優

s u b : 空へ

メリークリスマス、今年もクリスマス来たねっていままだ10月
くらいなんだけど

決心、鈍っちゃいそうだから先に打つとくって決めたんだ
俺、空のことが好きです

ちっちゃいときからずっと好きでした

いまの関係もなくなっちゃいそうで恐くて言えなかったけど勇気出して言います

俺と付き合ってください

……もっとかっこいい言い方できたらよかったのにな
返事はいつでもいいです それじゃ」

なんだこの時限爆弾。

……バカだよ。

お前バカすぎるよ。

けど、

「私も好きだよ」

いまからそっちに行くよ。

目を閉じてふっ と体の力を抜いた。

このまま、

地面まで一直線。

天国まで一直線。

あいつまで一直線。

どおん

地面すれすれで何かにぶつかった。

真横にぶっ飛ばされた。

地面があった。

あいつはいなかった。

死ねなかった。

「いつ……つう……」

代わりに変なやつが転がってた。
体当たりされたらしかった。

そいつは腕の骨が変だった。伸びてた。

ああ、こいつさっきの軟派野郎だ。

「何？」

「何、って…… イブに飛び降り見せられるこっちの身にもなってみろ！ 止めたくもなるだろうが」

「……信じらんない」

起き上がろうとした。

足が傷んだ。

無視した。

「おい、どこ行くんだよ」

「もっぺん飛び降りる」

「嘘だろ！？ ここで俺の話聴いて自殺ストップでラブラブがセオリーだろ！」

訳のわからないこと叫びながらそいつが腰に飛び付いてきた。

「離して」

というかセクハラだ。

「ここにあいっはいないの。天国に居るの。だから私も天国に行くの」

「バカかあんた！」

男は叫んだ。

「天国は空にあるんだよ。地面になんかねーよ！」

（後書き）

正直真昼自身なにが書きたかったのかよくわかってない

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0896j/>

From

2010年12月10日19時24分発行